

## 23 よりよい授業のために――授業改善視点表を作る――

市町村立の小・中学校の管理運営については、各都道府県の教育委員会がその基準を定め、それぞれの市町村の教育委員会が実情に則した規則を定めている。これには、教育課程に関するものも含まれ、奈良県の場合は、「各学校においては、学習指導要領及び県教育委員会の示す基準に基づいて編成するものとする」とされている。この規定に基づいて、県教育委員会が示すのが「指導計画の手びき」である。昭和 52 年の学習指導要領の告示のときには、中学校の理科担当教員としてこの作成にかかわり、これを配付し説明会を開催する昭和 55 年度には、教育委員会の職員としてこれにかかわった。

この手引きの作成委員会が開かれたとき、理科の責任者であった学校教育課指導主事の植田正家先生から、

「指導計画の作成についての基本的な考え方や留意事項を示すだけでなく、日々の指導の充実にもつながるようなものを考えてほしい」という話があった。単に、学習指導要領や文部省指導書を引き写したものではなく、実際に役立つものにしていこうという先生のお考えには大賛成で、この仕事には意欲をもって取り組むことができた。そして、「学習指導上の留意事項」の項目を設け、

- ① 校内に自然をつくる
- ② 校外に自然を求める
- ③ 視聴覚教材の活用
- ④ ノートの指導
- ⑤ 授業改善の試み
- ⑥ 理科薬品の適正な管理

などの具体的な内容について委員が協議し、分担して執筆した。

他の教科には見られないこのような内容については、「これでは、指導計画の手引ではなく学習指導の手引ではないか」という論議があった。この決着は各教科担当者の合議や上司の決裁の段階まで持ち越されたが、奈良県教育委員会名で無事に印刷発行された。そして、昭和 55 年 8 月 8 日、奈良市立京西中学校を会場にして開催した奈良県中学校教育課程研究集会で配付と説明を行った。

次に、この手引きから「授業改善の試み」の一部を紹介する。

.....

私たち教師が常に求めているもの、それは「より良い授業」である。そこで、私たちは授業のあとで「あれでよかったのかな」「こうするべきではなかっただろうか」と考える。そして、「子どもたちが楽しく学び合い、よくわかり、そのことがしっかり身につく学習」を創り出そうと努力する。そのために、私たちは「やる気をなくしている子はいないか」「みんなが目を輝かせて取り組んでいるか」などと、いくつかの問題点について、自問自答をくりかえしている。しかし、このような反省は主観的な判断にしか過ぎず、また、ひとりよがりの結論となってしまうことも多く、それはそれとして有効ではあるものの、具体的な改善策までは得られないことが多い。そこで、こうした点を解決する一つの方法として、授業をテープレコーダーやVTRによって記録し、これを用いて授業を分析するという手法が取り入れられるようになってきている。

これをさらに進めたものとして、「授業改善視点表」をつくり、授業の問題点をさぐると共に、改善のための指示まで得ようとする研究が進められている。このような「授業改善視点表」には、授業を観察する教師からコメントを得ようと

授業改善視点表 観察者 ( )			
	改善の視点	要改善	コメント
1	学習のめあてを明確にする		
2	内容を精選し整理する		
3	問題を見出させ予想をさせる		
4	説明の量を適切にする		
5	話し方、口調を工夫する		
6	発問を明確にする		
7	考える時間を与える		
8	多くの生徒の考えを引き出す		
9	板書をわかりやすくする		
10	生徒の理解状況を把握する		
11	助言を適切にし考えを高める		
12	はげまし賞賛を与える		
13	実験の課題を明確にする		
14	器具の操作や取扱いを指導する		
15	安全に配慮する		
16	学習に集中させる		
17	個々へも指導する		
18	グループ活動を高める		
19	教育機器を生かして使う		
20	学習をまとめ定着を図る		
その他			

するものと、学習者から改善すべき点を指摘させようとするものがある。

いずれにしろ、教師仲間でこのような視点表をつくり、お互いの授業を検討することは、「より良い授業を創る」ために大きな効果がある。前ページの「授業改善視点表」はその一例である。これを参考に、それぞれの学校の実状にあった視点表を工夫したいものである。

.....

ところで、良い授業に求められるものは何だろうか。それは、時代と共に変化してきた。「まずは多くの知識を与えること」と考えられた時代があったし、「体験させることが第一だ」というときもあった。今は「自ら学ぶ力」や「生きる力」の育成があげられている。それぞれの学校の教育目標や目指す子ども像の共通理解の上に、独自の「授業改善視点表」を作り、より良い授業を目指したいものである。